



これからの自分の生き方を考えさせられた修学旅行

校長 大谷 京司

11月14日(木)～16日(土)にかけて、6年生は鹿児島へ修学旅行に行ってきました。

1日目の桜島では、長年桜島で生活をしているガイドさんから桜島の火山活動の歴史や仕組み、実際の生活などを丁寧に教えてもらいました。

子どもたちに桜島で生活する魅力を聞かれると、噴火による灰は確かに迷惑だけれども、海と山の景色が素晴らしく、噴火の怖さに勝る恵みがありすばらしい所だと答えてくれました。水はけのよい火山灰により桜島大根や小みかんなどの名産がある他、噴火による深さのある海底地形と穏やかな湾のおかげでぶりやかんぱちの養殖も盛んであるなど、桜島愛あふれるお話も伺うことができました。



▲火山灰を手に桜島湯之平展望台にて
▼火山のミニ博物館「桜島ビジターセンター」でガイドのお話を伺う



2日目の知覧特攻平和会館では、陸軍の特攻機としても使われた戦闘機「隼」や出撃前に過ぎて遺書を記したり杯を交わしたりした三角兵舎などを見学した後、語り部さんより特攻作戦に至る経緯や実際の特攻隊員の遺書他様々な資料の説明などをしていただきました。夜に子どもたちと振り返りを行った際は、「変な愛国心」という言葉が印象的でした。自分の本当の意思とは別の思いに突き動かされ、親への感謝や謝罪の気持ちを綴った遺書を書く若き特攻隊員の気持ちに寄り添いながら、命の尊さや今後の自分の生き方につながる思いも語っていました。



一式戦闘機「隼」



語り部のお話



出撃前に過ごす三角兵舎



三角兵舎内部

3日目は仙巖園で薩摩切子の制作体験と工房見学を行いました。透明ガラスの上に色付きのガラスがコーティングされており、削った部分が美しいグラデーションとなって現れてきます。子どもたちは夢中になって六角形の線を削り、世界に1つだけの薩摩切子のキーホルダーを作りました。

工房では、職人ならではの勤とその精密度、作品の美しさに子どもたちも感激していました。



大山登頂 光で交信

11月8日(金)、前2回雨で断念した大山登山に5・6年生で挑みました。

山頂に着くまでは、かなり険しいところもあり、「もうだめー！」など弱音を吐く場面もありましたが、全員無事に登頂することができました。山頂では、広い景色の中からもまず浄水場を探し、そこから学校を見つけました。それぞれが持参した鏡に日光を当てて学校の方にゆらゆら揺らすと、しばらくして学校の方からキラッ、キラッと輝いているのを発見。「見えた！見えた！」と感動の声が・・・こちらの輝きも学校で見えていることも電話で確認できました。学校の1～4年生と山頂の5・6年生の一体感のようなものを実感しました。帰校後は、1～4年生に登頂おめでとうと迎え入れられ、写真立てと手作りのフルーツゼリーをプレゼントしてもらいました。5・6年生の絆が一層深まった貴重な体験となりました。



遠足でリーダー引継ぎ

11月22日(金)さわやかな秋空の下、江の島へ遠足に行って来ました。

今回の遠足では、4・5年生がリーダーとなって、江の島内グループ別自由散策のルートやバスレクを決めたり、当日のまとめ役を行ったりして、6年生はそのサポート役に徹しました。

事前のリーダー引継ぎ会では、4・5年生が少し不安を抱えているようなことに対して6年生がアドバイスをしてくれた他、6年生の今までの経験から、縦割りグループを上手くまとめていく“こつ”のようなものも伝授されました。楽しい雰囲気を作って活動するようにする、なぜこの活動をするのか理由をはっきりさせる、自分の手に余るような時は先生に相談したり対応をお願いしたりするなど、適切なアドバイスで教員も大きくなぞく内容でした。

当日は和やかな雰囲気の中、海や山、洞窟の美しい景観に新たな驚きや発見を感じながら、グループで自由に行動する楽しさを満喫していたようでした。



キャンプ座間訪問



5・6年生でキャンプ座間を訪問する機会をいただき、アメリカ文化に浸ってきました。

最初に、キャンプ座間から僅か10分で富士山まで到着するというヘリコプター(ブラックホーク)に乗せていただき子どもたちは大喜びでした。その他、ミドルスクール(日本の中学・高校)校内外やキャンプ内に駐屯している自衛隊の日米共同部館内の見学をしたり、フードコートで英語でランチを注文したりする経験をさせていただきました。子どもたちは優しく接して下さるアメリカ人に感謝しながら、初めてのキャンプ内での体験に終始目を輝かせていました。

